

海軍公報(部内限)第二千二十二號

昭和十年四月一日(月) 海軍大臣官房

舊紙ハ本紙ト引換ヘ燒却相成度

○令達

官房第一三四二號

當分ノ間除籍艦船ヲ左ノ通假稱シ部内限之ヲ使用ス

昭和十年四月一日

海軍大臣

假稱名 舊艦名

廢艦第六號 舊軍艦日進

官房第一三四五號

當分ノ間駐滿海軍部及臨時海軍防備隊ニ勤務スル軍人

軍屬ノ家族携行及下士官兵ノ外宿ニ關シ左ノ通定ム

昭和十年四月一日

海軍大臣

軍人軍屬ニシテ勤務地ニ家族ヲ携行セントスル場
合ニハ駐滿海軍部司令官ノ許可ヲ得ルヲ要ス

二 駐滿海軍部司令官ハ兵舎設備ノ關係等ニ依リ必要
アル場合ニハ勤務上差支ナキ者ニ限リ下士官兵ノ一

部ニ外宿ヲ命ズルコトヲ得

司令官前項ノ外宿ヲ命ジタルトキハ其ノ旨報告スル
モノトス

官房第一三四六號

驅逐艦澤風館山海軍航空隊附屬タル間同艦ノ給與及其
ノ他ノ經費支拂ハ館山海軍航空隊主計長ヲシテ取扱ハ
シム

昭和十年四月一日

海軍大臣

官房第六九八號ノ五

昭和九年度歳入科目中左ノ通追加ス

昭和十年三月二十七日

海軍大臣

歳入經常部

海軍大臣

款	項	目	解	疏	會計課 電信略號
(官業及官有) 財源收入	(官有物) 貸下料				

海軍公報(部内限)第二千二十二號 昭和十年四月一日

浮船渠
貸下料

スル

○ 通牒

軍務一機密第九〇號

昭和十年三月二十九日

海軍省軍務局長

各鎮守府、舞鶴要港部參謀長、
内國各地監督長、首席監督官、
關係各廳長

造修規則改正ニ伴フ公試ノ實施ニ關ス
ル件申進

今般艦船造修規則ノ改正及内令兵第七號ニ依ル艦船裝
備兵器ノ諸公試實施ニ關スル指令ニ依リ諸公試ノ實施
方法改正セラレ候處既ニ公試施行中ノモノニ關シテハ
四月一日以降ニ施行豫定ノ諸公試ノミ改正規定ニ依リ
實施シ三月三十一日以前ニ終了セル公試ニ對シテハ更
メテ之ヲ行ハザルコトニ定メラレ候

○ 訓令

海軍省出仕海軍主計中佐 爲本 博篤

○ 辭令

海軍省軍務局ニ於テ服務シ兼テ經理局並ニ臨時調査
課ニ於テ服務スヘシ(前海軍大臣)

技生 山口 清
同 浦井 鎮吾

(各通)
滿洲國へ出張ヲ命ス(前海軍省)

海軍公報 (部内限) 第二千二十三號

昭和十年四月二日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第七九五號

昭和十年四月一日

海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官殿

海軍水雷學校練習艦ノ件訓令

昭和九年官房機密第二五二三號昭和十(教育)年度練習艦配當表ノ外海軍水雷學校ノ練習用トシテ軍艦嚴島ヲ充ツ

(昭和九年十一月十五日公報(部内限)参照)

官房第一三三七號

昭和十年度北海方面艦艇派遣諸費ヲ以テ經費ヲ支辨スベキ艦艇左ノ通指定シ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
經費整理區分ハ海軍省經理局長ヲシテ通牒セシム

昭和十年四月一日

海軍大臣

第一驅逐隊(野風、沼風、波風、神風)

官房第一三八七號

艦營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和十年四月二日

海軍大臣

航海長主管

艦船部隊名	類 別		消耗品第二類
	數	品 名	
戰艦、練習戰艦、巡洋艦、航空母艦、水上機母艦、潜水母艦(母艦、胸橋ヲ除ク)、海防艦(釣馬ヲ除ク)	枚	天氣圖用紙	一、四〇〇

海軍公報(部内限) 第二千二十三號 昭和十年四月二日

一七一

海軍公報(部内限) 第二千二十三號 昭和十年四月二日

軍艦、驅逐艦、潜水艦、 水雷艇、掃海艇、特務艦、 海兵團、要港部、防備隊、	艦部 隊名 數 品類 稱 名 別	航海長 主管 海軍大臣	對馬、韓崎、駒橋、敷設艦、砲 艦、驅逐艦、潜水艦、水雷艇、 掃海艇、特務艦	一、〇〇〇
			霞ヶ浦海軍航空隊 第一、第二、第三各艦隊司令部 第一、第二各航空戰隊司令部	二、〇〇〇
			霞ヶ浦海軍航空隊 第一、第二、第三各艦隊司令部 第一、第二各航空戰隊司令部	四、〇〇〇

巡洋艦、航空母艦、 潜水母艦 海防艦	戰艦、練習戰艦	艦部 隊名 數 品類 稱 名 別	砲術長 主管 海軍大臣	海軍航空隊、霞ヶ浦海軍 航空隊友部分遣隊 艦隊司令部、戰隊司令部 驅逐隊、水雷隊、掃海隊	※
				官房第一三八九號 艦營需品定額表中數量左ノ通定ム 昭和十年四月二日	
砲艦、驅逐艦				備十四類同 十二ノイ 十二ノロ 十二ノハ 同 十三 同	
巡洋艦、航空母艦、 潜水母艦		個		同 同 同 同	
戰艦、練習戰艦		個		同 同 同 同	
海防艦		個		同 同 同 同	
砲艦、驅逐艦		個		同 同 同 同	
巡洋艦、航空母艦、 潜水母艦		個		同 同 同 同	
戰艦、練習戰艦		個		同 同 同 同	
海防艦		個		同 同 同 同	
砲艦、驅逐艦		個		同 同 同 同	
巡洋艦、航空母艦、 潜水母艦		個		同 同 同 同	
戰艦、練習戰艦		個		同 同 同 同	
海防艦		個		同 同 同 同	
砲艦、驅逐艦		個		同 同 同 同	

艦船部隊名	數			記事
	本主管	他主管	合計	
吳、佐世保各海兵團	三	八	三	古鷹型、青葉型巡洋艦、龍驤、鳳翔
防備隊、臨時海軍防備隊、海軍航空隊 <small>(霞ヶ浦、館山、各)</small>	一	一	一	二等巡洋艦 <small>(夕張、天龍、龍田)</small> 最上、三隈ヲ除ク
霞ヶ浦海軍航空隊友部分遣隊	一	一	一	夕張、天龍、龍田
霞ヶ浦海軍航空隊	一	四	二	長鯨、迅鯨、大鯨
館山海軍航空隊	一	二	一	海防艦、神威、能登呂、韓崎、常磐
上海海軍特別陸戰隊	六	二	六	駒橋、敷設艦 <small>(常磐ヲ除ク)</small> 淀
官房第一三九〇號				砲艦 <small>(淀ヲ除ク)</small>
艦營需品定額表中數量左ノ通定ム				吹雪型、初春型、有明型
昭和十年四月二日				驅逐艦
海軍大臣				峯風型、神風型、睦月型
機關長主管				驅逐艦、浦風
備品第二類作業電燈				二等驅逐艦、一等潛水艦、水雷艇、掃海艇
				二等潛水艦
				特務艦 <small>(朝日、敷島、攝津ヲ除ク)</small>
				海兵團、要港部 <small>(舞鶴要港部司令部ヲ除ク)</small>
				航空隊、駐浦海軍部
				防備隊 <small>(臨時海軍防備隊ヲ含ム)</small>
妙高型、高雄型、最上型	三五	三五	三五	六
巡洋艦	二五	二五	二五	四
				六
				六
				四
				六
				二
				三
				四
				六
				三
				五
				一〇
				一六
				一二
				一六
				二〇

海軍公報(部内限)第三千二十三號 昭和十年四月二日 一七三

艦 船 部 隊 名		數		量		記事
本主管	他主管	合計	本主管	他主管	合計	
備品第十類回轉計 丙						
吹雪型、初春型、有明型 驅逐艦	二		二		二	手動ビュ チ聊筒用
備品第十類ゴム蛇管 乙特小						
上海海軍特別陸戰隊	一〇		一〇			
備品第十四類防塵マスク						
無線 電所信	一		一			(東京(東京受信所)、 鎮海、旅順、舞鶴) ノ除ク
備品第十四類防塵マスク						
戰艦、比叻、一等巡洋艦 赤城、加賀、韓崎、最上、三隈	一五		一五			
二等巡洋艦(最上、三隈ノ除ク) 白鷹、八重山、勝力、能登呂	一〇		一〇			
海防艦 安宅、嵯峨、膠州、大泊 驅逐艦、掃海艇(第七號、八 號、九號、十號ノ除ク)	二五		二五			
砲艦(從、安宅、嵯峨ノ除ク) 特務艦(朝日、敷島、攝津、 膠州、大泊ノ除ク)	四		四			
水雷艇	一〇		一〇			
消耗品第十二類酸性白土						
戰艦、一等巡洋艦 赤城、加賀、最上、三隈	一六〇		一六〇			
敷設艦(常務勝力)、一等潜水 艦、二等潜水艦(呂六〇乃 呂六八)	一		一			
水雷艇、驅潜艇						
海兵團、防備隊(臨時海軍防 御隊ノ含ム)						
旅順要港部、航空隊(浦海 軍航空隊支部分遣隊、横須賀 海軍航空隊隊科練習部ノ含ム)						

二等巡洋艦(最上、三隈ヲ除ク) 鳳翔、龍驤、迅鯨、長鯨、常磐 海防艦、特務艦	一〇〇		一〇〇	
敷設艦(常磐ヲ除ク)、驅逐艦	六〇		六〇	
淀、宇治、安宅 水雷艇、掃海艇	四〇		四〇	
砲艦(淀、宇治、安宅ヲ除ク)	二〇		二〇	
消耗品第七類電 球 丙				
作業電燈ノ定數ヲ五倍シタル數量ヲ定數トス 但シ携帯電燈用トシテ從來ヨリ設定シアル定數ハ 前項ノ定數ニ之ヲ合算スルモノトス				
消耗品第十二類 乾 電 池				
作業電燈ノ定數ヲ十倍シタル數量ヲ定數トス 但シ携帯電燈用トシテ從來ヨリ設定シアル定數ハ 前項ノ定數ニ之ヲ合算スルモノトス				
官房第一三九一號				
各艦船部隊工作長主管金工之部及工作長主管木工之部 艦營需品定額表中數量別表ノ通定ム				
昭和十年四月二日				
海 軍 大 臣				
(別表二葉添)				
官房第一三九二號 達第三十號ヲ以テ改正セル艦營需品定額表品名中其ノ 定數ヲ左ノ通定ム 昭和十年四月二日 海 軍 大 臣				
主計長 主管				
區別 類別 番號 品 名 稱數 定 數				
消耗品 一二 三五 新聞雜誌 部 ※				
同 一二 五五 海軍醫務制規 部				
同 一二 五六 フアイチング、 シツプス 部 舊新報雜誌ノ定數ヲ 其傳誌記				
同 一二 五七 ネットバル、 アニユアル 部				
同 一二 五八 エアクラフト 部				
○ 通 牒				
官房第一二五三號ノ六 昭和十年四月二日				
海 軍 省 副 官				

海軍公報(部内限)第二千二十三號 昭和十年四月二日

關係各廳長殿

報國第七十四號(第三全國民號)、報國第七十五號(第四全國民號)、報國第七十六號(第二南洋號)各飛行機ノ要目發

表及寫眞撮影範圍ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ報國第五十五號(第一日本鋼管號)飛行機ト同一ノ義ト御了知相成度

(昭和九年四月十二日公報(部内限)所載官房第一五八二號參照)

經豫第六號ノ四〇

昭和十年四月一日

海軍省經理局長

各支出官殿

支拂豫算ニ關スル件通牒

昭和九年度支拂豫算ニシテ増額又ハ減額ヲ要スルモノハ整理ノ都合上本月二十日迄ニ必ズ當局ニ到達スル様請求書提出相成度

經豫第六號ノ四六

昭和十年四月一日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

官房第一三三七號ニ依ル昭和十年度北海方面艦艇派遣諸費整理區分ハ昭和五年經豫第一八二號ノ通ト定メラレ候

航本機密第四五二號

昭和十年四月一日

海軍航空本部長

海軍艦政本部長

關係各廳長殿

海軍艦政本部及海軍航空本部間分掌事項ノ件通牒

昭和二年四月五日艦本機密第一二九一號中第一號ハ左記ノ通改メラルルコトニ決裁相成候

記

一、左記ニ關スル事務ハ海軍艦政本部ニ於テ之ヲ行フ

(イ)機銃、機銃彈藥包、爆彈炸藥、火管、信管、射出機用裝藥包、化兵藥ノ製造、修理

(ロ)魚雷及其ノ附屬兵器、航海關係兵器ノ計畫、造修

(ハ)製造、修理、試驗(以下同ジ)

(ニ)無線電信電話裝置ノ計畫、造修

(備考)

(一)右ニ依リ從來海軍艦政本部ニ於テ所掌セシ左記航空

海軍公報(部内限) 第二千二十九號

昭和十年四月十日(水)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一三四〇號

昭和十年度海軍省所管歳入歳出科目別冊ノ通定ム

但シ別冊ハ海軍省經理局長ヲシテ所要ノ向ヘ配付セ

シム

昭和十年四月一日

海軍大臣

○ 雜 款

○郵便物發送先

第二航空戰隊司令部、軍艦赤城宛

四月十六日迄ニ到達見込ノモノハ

鹿兒島縣志布志

其ノ後ハ

第二艦隊司令部ニ同シ

第九驅逐隊(有明、夕暮)宛

四月十八日迄ニ到達見込ノモノハ

第二航空戰隊司令部ニ同シ

海軍公報(部内限) 第二千二十九號 昭和十年四月十日

(限 内 部)

1059

海軍公報(部内限)第二千三十號

海軍大臣官房

昭和十年四月十一日(木)

○通牒

軍需第八〇號

昭和十年四月十日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

運用長主管艦營需品備品水樽ニ

關スル件通牒

昭和九年十一月達第九十六號ニ依リ首題物品ノ摘要改正相成候處現ニ九米未滿ノ短艇用トシテ供用中ノモノハ摘要ト一致セズ爲メニ引換ヲ要スル向有之ベキモ右ハ經費節約上從來品ヲ其儘命數限リ使用セシムル主旨ニ有之候條御了知相成度

○辭令

海軍主計中佐 宮本 正光

表彰審査委員會委員ヲ命ス

海軍工作應會計制度調査委員會委員ヲ命ス(海軍省)

海軍公報(部内限)第二千三十號

昭和十年四月十一日

一九三

海軍公報 (部内限) 第二千三十一號

昭和十年四月十二日(金)
海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍中佐 津田 源助 (八重山)
 同 野元 爲輝 (艦本)
 海軍大尉 幸嶋 道介 (八重山)
 (各通) 海軍機關中佐 中垣 重三 (佐 艦)
 海軍機關少佐 相宗 邦造 (八重山)
 軍艦八重山審議委員ヲ命ズ (海軍艦政本部)
 軍令部部長陸軍砲兵少佐 稻田 正純
 第一部第一課勤務ヲ命ズ (海軍司令部)

○ 雜 款

○ 正 誤
 本月二日令達閣官房第三八九號砲術長主管艦營需品定額表數量制定中艦船部隊名稱「驅逐艦」ハ「驅逐隊」ノ誤

海軍公報 (部内限) 第二千三十一號 昭和十年四月十二日

海軍公報 (部内限) 第二千三十二號

海軍大臣官房

昭和十年四月十三日(主)

○令 達

官房第一五六五號

左記ニ依リ海軍砲術學校ニ於テ銃劍術及體操ノ臨時講習ヲ施行ス

左記第三號ノ講習員ヲ派遣スベシ

追テ所屬長官ハ派遣員ノ官氏名ヲ四月二十日迄ニ報告スルト共ニ海軍砲術學校長ニ通報スベシ

昭和十年四月十三日

海軍大臣

一、講習ノ目的

各部ニ於ケル銃劍術及體操ノ實地指導者タルベキ下士官ニ銃劍術及體操ニ關スル技能ヲ修得セシムルニアリ

二、講習期間

昭和十年五月一日ヨリ昭和十年五月三十一日迄

三、講習員

銃劍術又ハ體操ニ長ズル下士官ニシテ過去ニ於ケル本講習未済ノモノ且昭和十一年十一月迄現役満期トナラザルモノノ中ヨリ左ノ通選抜スルモノトス

横須賀鎮守府

八名

吳鎮守府

五名

佐世保鎮守府

四名

海軍兵學校

二名

海軍機關學校

一名

舞鶴要港部

一名

大湊要港部

一名

四、講習ニ必要ナル要具ハ海軍砲術學校ニ於テ準備スルモノトス

五、横須賀鎮守府ヨリ派遣スル講習員ハ通勤セシムルヲ例トス

六、前號以外ノ講習員ハ講習期間中海軍砲術學校ニ起

海軍公報 (部内限) 第二千三十二號 昭和十年四月十三日

一九七

海軍公報(部内限) 第二千三十二號 昭和十年四月十三日

一九八

七、講習員ニ對スル往復旅費ハ別途配付ス
臥セシメ糧食ヲ給シ日當及宿泊料ハ之ヲ支給セズ

○通牒

軍需部第八九號

昭和十年四月十三日

海軍省軍需局

關係各應御中

艦營需品直接購買通報ニ關スル件通知

昭和九年度艦營需品直接購買通報ヲ當局ニ直接通報セラルル向有之モ右ハ艦營需品經理規程第二十條但書ニ依リ所管軍需部經由ノ上通報相成度

○辭令

海軍機關中佐 田原邦三

漢口へ出張ヲ命ス(海軍省)

海軍公報 (部内限) 第二千三十三號

海軍大臣官房

昭和十年四月十六日(火)

○令達

官房第一六一四號

左記ニ依リ海軍經理學校ニ於テ臨時主計科士官講習ヲ施行ス

任務其ノ他ノ都合ニ依リ講習員ヲ派遣シ能ハサル場合ニハ其旨所屬長官ヨリ報告スヘシ

昭和十年四月十六日

海軍大臣

記

一 講習科目

會計經理其ノ他所掌事務遂行上必要ナル事項ニツ

キ海軍經理學校長ノ定ムル所ニ依ル

二 講習期間

昭和十年五月十日ヨリ同二十三日迄

三 講習員

海軍主計中佐 丹羽 榮一

四 旅 費

講習開始前日海軍經理學校ニ參集講習終了當日出發ノコトトシ請求ヲ俟テ別途配付ス

○辭令

海軍機關少佐 高橋 長之

陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ命ス(陸海軍省)

海軍公報(部内限) 第二千三十三號 昭和十年四月十六日

軍令部次長海軍中將 子爵 加藤 隆義
 軍令部第一部長 缺員 中同職職務取扱ヲ命ス(十四日) 軍令部

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

佐世保警備戰隊司令部、軍艦北上宛
 四月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ 佐 世 保
 同 二十九日迄ニ 同 長 崎 縣 福 江
 五月 一 日迄ニ 同 熊 本 縣 三 角
 同 五 日 迄ニ 同 鹿 兒 島 縣 米 津
 同 六 日 迄ニ 同 同 佐 敷
 同 七 日 迄ニ 同 同 枕 崎
 同 九 日 迄ニ 同 同 宮 崎 縣 延 岡
 同 十 一 日 迄ニ 同 同 大 分 縣 日 出
 同 十 三 日 迄ニ 同 同 佐 世 保
 其ノ後ハ、

○ 書類各艦宛別送ノ件依頼
 當隊(沼風、波風、神風、野風)五月下旬ヨリ九月上旬ニ亙ル期間堪察加方面警備ニ從事セシメラル豫定ニ有之候處其ノ間各艦ハ全ク分離行動ヲナスニ付從來一併送付ヲ受ケタル書類ハ五月以降九月上旬迄ノ間凡

テ各艦別ニ御送付ノコトニ御取計ヲ得度
 追テ所轄長宛ナルモ各艦ニ配布ヲ要スト認メラル
 モノハ各艦宛寫ヲ御送付相成度
 (第一驅逐隊)

海軍公報 (部内限) 第二千三十四號

海軍大臣官房

昭和十年四月十七日(水)

○令達

官房第四五六號ノ二
雜役船ノ船種ヲ左ノ通變更ス

昭和十年四月十六日

海軍大臣

公稱番號	新船種	舊船種	所 屬	定數別	記事
第五七號	曳船兼 交通船	司令官艇	舞鶴要港部 港務部	臨時 附屬	

○通牒

教育第四〇號ノ一〇

昭和十年四月十六日

海軍省教育局

關係各應御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料

ノ件通知
昭和十年四月第十回無線電信遠距離受信檢定信文送信
要目左記ノ通
記

信文	軍艦鳥海	送信
番號	送 信 日 時	速度(分間)
一	四月十一日 午後一時三十分	八〇
二	同 一 時 六 分	八〇
三	同 一 時 九 分	八〇
四	同 一 時 十 三 分	八一
五	同 一 時 十 六 分	八〇
六	同 一 時 十 九 分	八〇
七	同 一 時 二 十 三 分	八一
信文修正		

海軍公報(部内限)第二千三十四號 昭和十年四月十七日

海軍公報(部内限) 第二千三十四號 昭和十年四月十七日

二〇二

八同	一時二十七分	八〇
九同	一時三十分	八一
一〇同	一時三十三分	八〇
一一同	一時三十七分	八〇
一二同	一時四十一分	八一
一三同	一時四十四分	八〇
一四同	一時四十八分	八〇
一五同	一時五十二分	八〇
一六同	一時五十五分	八〇
備一、航海中		
考一、天候曇、海上和		

○ 辭令

通信事務官 坂部 一郎
 第一海軍軍用郵便所長ヲ命ス(海軍省)

(限 内 部)

1067

海軍公報(部内限)第二千三十五號

昭和十年四月十八日(木)

海軍大臣官房

○令 達

官房第五四號ノ二

昭和十年官房第五四號ニ依リ昭和十年度ニ於テ採用スベキ各種練習生ノ員數中左ノ通改正ス

昭和十年四月十八日

海軍大臣

表中潜航術ノ部ヲ左ノ如ク改ム

潜航術			
掌水雷(魚雷)	二〇	九〇	四〇
掌水雷(機雷)	四	六	五
掌機	二〇	九〇	四〇
掌電機	二〇	八〇	三〇
			一三〇

官房第一六六〇號
昭和十、十一年度ニ於テ採用スベキ海軍潜水學校潜航

昭和十、十一年度ニ於テ採用スベキ海軍潜水學校潜航
廢止

術掌機練習生ハ海軍潜水學校規則第十二條中機關術(内火機械)特修兵タル者ノ中ヨリ選拔スベキ旨ノ規定ニ拘ラズ海軍工機學校機關術(掌機術)練習生教程卒業ノ者ヨリ之ヲ採用ス

昭和十年四月十八日

海軍大臣

海軍公報(部内限)第二千三十五號 昭和十年四月十八日

二〇三

(限 内 部)

1068

海軍公報 (部内限) 第二千三十六號

海軍大臣官房

昭和十年四月十九日(金)

○令達

官房第一六七七號

昭和十年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和十年四月十九日

海軍大臣

一般會計

臨時部					
	× 賞與				ハム
		× 賞與			
			× 賞與		
				× 賞與	

特別會計

	× 賞與					ケア
		× 賞與				
			× 賞與			
				× 賞與		
					シミ	
						キラ
						電會計略號

海軍公報(部内限) 第二千三十六號

昭和十年四月十九日

二〇五

(限 内 部) 1069

海軍公報(部内限)附録

海軍大臣官房

昭和十年三月十九日(金)

昭和十年二月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

(海軍省人事務局)

佐多	襟裳	田雲	長由 鯨良	球磨	龍田	艦船名	加算始終期(左右)	着發地名	行先	任務	恩給叙勳	加算率(付月)	記事
	一〇		一〇		一〇		年						
二	二	二	二	二	二		月						
九	一七	四	二五	二四	一八		日						
廣	吳	佐世保	宿毛	馬公	馬公								
北米沿岸		臺州列島	方幌筵海面										
遠洋航海		外國鎮戍	遠洋航海										
三分ノ		一月半	三分ノ										
		同上											

海軍公報(部内限)附録

藤、 葛	萩、 薄	梅	神波沼野 風風風	夕島沙灘 風風風	隱 戸	鳴 戸	神 威	鶴 見
..... 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇
..... 二 二 三 二 二 二 二 二 二
..... 二六 二四 二四 二四 九 一〇 四 二六 一
..... 同 同 馬公 横須賀 馬公 横須賀 横須賀 宿毛
..... 塘沽 威海衛 方幌筵海面 方幌筵海面
..... 同 外國鎮戍 遠洋航海 遠洋航海 聯合艦隊
..... 同 一月半 一三分月 一三分月 同
..... 同上 同上

海軍公報 (部内限) 附録

海軍公報(部内限)附録

伊號第五十三潜水艦 第六十三	伊號第五十四潜水艦 第六十四	伊號第五十五潜水艦 第六十五	劉芙蓉 顏	蓼	蓬	運
一〇	一〇	一〇	一〇			
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二四	二五	二七	二二	二三	二三	二七
横須賀	宿毛	冠嶮	馬公	馬公	馬公	八馬公
同	方幌 筵海 面峽					福州
同	遠洋航海					外國鎮戍
同	一三分月ノ					一月半
						同上

海軍公報(部内限) 第二千三十七號

海軍大臣官房

昭和十年四月二十日(土)

○通牒

軍務三機密第四六號

昭和十年四月十九日

海軍省軍務局

關係各部御中

艦内工作關係法令、内規等ニ關スル件照會

艦内工作統制ニ關スル調査資料ト致度ニ付各戰隊、各艦(隊)並ニ關係部隊ニ於ケル首題現行法令、内規等ノ寫一部當局第三課宛送付相成度

軍需需第九四號

昭和十年四月十七日

海軍省軍需局長

横須賀

吳

海軍軍需部長殿

運用長主管艦營需品貸與品潜水艦救命

衣ニ關スル件通牒

首題物品ハ昭和九年九月軍需需第二四八號追書ニ依リ整理相成候處達第四十二號ヲ以テ「潜水艦救命衣」ヲ備品ニ制定セラレ候ニ就テハ本品ヲ備品ニ組替ヘ現在貸與シアルモノハ其ノ儘備品貸與トシテ處理相成度

追テ當分ノ間備品ニハ定數ヲ置カズ備品貸與トシテ處理スルコトトシ之ガ貸與並ニ還納ニ關シテハ軍需局長ノ指示ニ依ラレ度尙本品ヲ貸與シタル時要スル消耗品ハ定額表外トシ告知豫算内支辨セシムル義ト了知相成度

經契第三號ノ二九五

昭和拾年四月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

艦船用リノリユーム購買合併契約締結ノ

件通牒

首題ノ件左記ノ通契約締結候條可然取計相成度

海軍公報(部内限) 第二千三十七號 昭和十年四月二十日

二〇七

一〇契雜第二號

契約書

海軍省經理局長村上春一(以下甲ト稱ス)ハ艦船用リ
ノリユーム(以下本品ト稱ス)購買ニ關シ東洋リノリ
ユーム株式會社代表取締役加藤正男代理高島屋飯田株
式會社取締役社長飯田藤二郎(以下乙ト稱ス)ト契約
スルコト左ノ如シ

第壹條 乙ハ昭和拾年四月壹日以降昭和拾壹年參月參
拾壹日ニ至ル期間甲若ハ海軍工廠及工作部並ニ海軍
軍需部(以下丙ト稱ス)ノ註文ニヨリ左記價格ヲ以
テ本品ヲ供給スルモノトス

品	種	單價(壹米ニ付)
リノリユーム茶色	三耗厚	七四〇〇
同	四耗厚	九五〇〇
リノリユーム綠色	三耗厚	八參〇〇
同	四耗厚	壹〇七〇〇

本單價中ニハ納入地迄ノ持込費ヲ含ム

第貳條 本品ハ官ノ指定スル規格ニ合格セルモノナル
ヲ要ス

第參條 甲若ハ丙ガ本品ノ供給ヲ受ケントスルトキハ
寸法、規格、數量、納期、納入場所其他必要ナル事
項ヲ記載シタル註文書ヲ乙ニ送付ス

第四條 乙ハ前條ノ註文書ヲ受ケタルトキハ指定事項
ニ應ジ遲滞ナク納入スルモノトス

第五條 本品納入地ニ到達シタルトキハ受領應ニ於テ
必要ト認ムル検査ヲ行ヒ合格ノ上之カ引渡ヲ受クル
モノトス

第六條 乙ハ本品ノ納入ヲ終リタルトキハ内譯明細書
ヲ附シタル代金請求書ヲ受領應ニ提出スルモノトス
分割納入ノ場合ニアリテハ前項ニ準シ請求書ヲ提出
スルコトヲ得

第七條 官ニ納入シタル本品代價ハ前條ニ依リ代金請
求書受理後十五日以内ニ當該支出官ニ於テ支拂フモ
ノトス

第八條 乙ハ當該支出官ノ承諾ヲ受クルニ非ラツレハ
本契約ニ因リテ生スル官ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓
渡スルコトヲ得サルモノトス

第九條 本契約ニ明揭ノ外ハ海軍契約規程並ニ同施行

手續ニ依ルモノトス
右契約ヲ證スル爲メ本書試通ヲ作り各自記名捺印シテ
各共ノ壹通ヲ保有スルモノナリ

昭和拾年四月壹日

海軍省經理局長 村上春一

兵庫縣川邊郡伊丹町五百五十八番地

東洋リノリユーム株式會社代表取締役

加藤正男 代理

東京市京橋區銀座西貳丁目壹番地

高島屋飯田株式會社

取締役社長 飯田藤二郎

經契第三號ノ三五四

昭和十年四月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

麻帆布購買合併契約締結ノ件通牒

首題ノ件左記ノ通契約締結候條可然取計相成度

記

一〇契雜第一號

契約書

海軍省經理局長村上春一(以下甲ト稱ス)ハ麻帆布(以下本品ト稱ス)購買ニ關シ帝國製麻株式會社取締役社長四條隆英(以下乙ト稱ス)ト契約スルコト左ノ如シ
第壹條 乙ハ昭和拾年四月壹日以降昭和拾壹年參月參拾壹日ニ至ル期間甲若ハ海軍工廠及工作部並ニ軍需部(以下丙ト稱ス)ノ注文ニヨリ左記價格ヲ以テ本品ヲ供給スルモノトス

品名	數量	價格	摘要
上帆布壹號(號 壹號)	壹米	一六三	
同上貳號(同 貳號)	同	一五六	
同上參號(同 參號)	同	一四八	
同上四號(同 四號)	同	一四〇	
同上五號(同 五號)	同	一三二	
同上六號(同 六號)	同	一二四	
同上七號(同 七號)	同	一一七	
同上八號(同 八號)	同	一〇九	

海軍公報(部内限)第二千三十七號

昭和十年四月二十日

二〇九

並帆布壹號(小錨壹號)	同		九三
同上貳號(同貳號)	同		九一
同上參號(同參號)	同		八八
同上四號(同四號)	同		八六
同上五號(同五號)	同		八四
同上六號(同六號)	同		八二
黒染帆布	同		一七八

本單價中ニハ納入地迄ノ持込費ヲ含ム

第貳條 本品ハ官ノ指定スル規格ニ合格セルモノナルヲ要ス

第參條 甲若ハ丙ガ本品ノ供給ヲ受ケントスルトキハ寸法、規格、數量、納期、納入場所其他必要ナル事項ヲ記載シタル註文書ヲ乙ニ送附ス

第四條 乙ハ前條ノ註文書ヲ受ケタルトキハ指定事項ニ應シ遲滞ナク納入スルモノトス

第五條 本品納入地ニ到達シタルトキハ受領應ニ於テ必要ト認ムル検査ヲ行ヒ合格ノ上之カ引渡ヲ受クルモノトス

第六條 乙ハ本品ノ納入ヲ終リタルトキハ内譯明細書ヲ附シタル代金請求書ヲ受領應ニ提出スルモノトス分割納入ノ場合ニアリテハ前項ニ準シ請求書ヲ提出スルコトヲ得

第七條 官ニ納入シタル本品代價ハ前條ニ依リ代金請求書受理後拾五日以内ニ當該支出官ニ於テ支拂フモノトス

第八條 乙ハ當該支出官ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ本契約ニ因リテ生スル官ニ對スル債權ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得サルモノトス

第九條 本契約書ニ明掲ノ外ハ海軍契約規程並ニ同施行手續ニ依ルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本書式通ヲ作り各自記名捺印シテ各其ノ壹通ヲ保有スルモノナリ

昭和拾年四月壹日

海軍省經理局長 村上春一
帝國製麻株式會社
取締役社長 四條隆英

○ 辭 令

南京駐在ヲ免ス

海軍大佐 岡野 俊吉

海軍中佐 北浦 豊男

上海駐在ヲ免シ南京駐在ヲ命ス(以上三員海軍省)

海軍公報(部内限) 第二千三十七號 昭和十年四月二十日

二二一

海軍公報

(部内限) 第二千三十八號

昭和十年四月二十二日(月)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一〇一七號

昭和十年四月二十二日

海軍大臣

所屬長官殿

考課表、拔擢名簿及候補名簿ノ取扱ニ
關スル件訓令

昭和十年度士官、特務士官及准士官ノ考課表、拔擢名簿及候補名簿ノ取扱ニ關シ左ノ通心得ベシ

記

一、定期考課表ハ海軍考課表規則第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ期日ニ於テ之ヲ調製、進達及移牒スベシ

官期別	調製期日	任用進級候補名簿調製官ニ進達期日	在籍鎮守府司令長官ニ進達(移牒)期日	海軍大臣ニ進達期日
士官	七月十日			七月二十日

特務士官 七月十日

七月二十日

二、演習ノ爲臨時ニ編成セラルル部隊ニ勤務スル者ノ考課表調製ニ關シテハ努メテ海軍考課表規則第六條第一項ノ規定ヲ勵行シ大演習終結迄ニ到達スル如ク順序ヲ經テ(固有ノ所屬ヲ經由セズ)進達又ハ移牒スベシ

三、前項ニ依ル考課表ノ調製ニ關シ海軍考課表規則第十二條ノ規定ハ之ヲ臨時編制部隊ニ準用ス

四、拔擢名簿及候補名簿ハ海軍武官任用進級取扱規則第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通取扱フベシ但シ海軍武官任用進級資格ヲ有スルモ本項ニ依ル取扱ノ結果之ヲ失フ者ニ對スル實役停年計算期日ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ本項所定ノ拔擢名簿調製期日現在ノ勤務ガ海軍武官任用進級取扱規則第四條ノ規定ニ依ル實役停年計算期日迄繼續スルモノトシテ實役停年ヲ計算シ拔擢名簿及候補名簿

海軍公報(部内限) 第二千三十八號

昭和十年四月二十二日

二一三

簿ニ其ノ旨附記スベシ

期日	實役停年計	抜擢名簿	候補名簿	海軍大臣ニ
算期日	調製期日	（艦）期日	（移）期日	進達期限
佐官尉官	六月三十日	七月一日	七月十日	七月二十五日
特務士官	七月十日	七月十一日	七月二十日	八月二十日

○ 雜 款

○ 吳、宿毛間吳鎮守府發差通信艇便

通信艦艇	吳	發	宿毛	發	便名
那沙美	四月三十日	五月一日	五月一日	イ便	
第九號掃海艇	五月一日	同	同	ロ便	
白 應	同 （〇八〇五）	同	同	ハ便	
那沙美	※同	※同	※同	ニ便	
第九號掃海艇	同	同	同	ホ便	
那沙美	同	同	同	ヘ便	
第九號掃海艇	※同	※同	※同	ト便	

記 事

一、兩地共〇六三〇發同日一八〇〇日の地着ノ豫定（自應ヲ除ク）
 二、吳第一上陸場發便〇六二〇（吳港務部汽艇）
 三、便乗者ハ辨當携帶ノコト
 四、便乗者ハ戰技日程ノ狀況ニ依リ變更スルコト
 ※便乗者ハ豫メ吳鎮守府ニ照會ヲ要ス
 アリ便乗希望者ハ豫メ吳鎮守府ニ照會ヲ要ス

海軍公報 (部内限) 第二千三十九號

昭和十年四月二十三日(火)
海軍大臣官房

○通牒

官房第一七一四號
昭和十年四月二十三日

海軍次官

關係各廳長殿

資源ニ關スル標準用語ノ使用ニ關スル
件申進

本年三月六日内閣告示第一號ヲ以テ資源ニ關スル標準用語中機械ニ關スルモノニ付決定公布セラレ候處之ガ使用普及ニ關シテハ昭和六年官房第一〇〇九號ニ依ルハ勿論ノ義ニ有之候ヘ共現行海軍用語ニ抵觸スルモノニ付テハ海軍用語ニ依ル義ト御承知相成度尙海軍用語モ適當ノ時機ニ於テ差支ナキ限リ標準用語ト一致スル如ク改訂セラルル豫定ニ有之候

○辭令

海軍用語調査委員會委員ヲ命ス
陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事ヲ命ス(海軍省)
海軍少佐 濱田 祐生

(各通)

- 海軍大佐 山本 弘毅(艦本)
- 海軍中佐 秋山 門造(舞要)
- 海軍中佐 野元 爲輝(艦本)
- 海軍大尉 鈴木 保厚(友鶴)
- 海軍機關中佐 松村 積徳(舞要)
- 海軍機關少佐 石塚 正俊(艦本)
- 海軍機關少佐 植松 正孝(舞要)
- 海軍機關大尉 加藤 香(友鶴)
- 水雷艇友鶴審議委員ヲ命ス(海軍艦政本部)
- 海軍少將 井上 肇治(艦本)
- 海軍大佐 三輪 茂義(同右)
- 同 草鹿 龍之助(航本)
- 海軍中佐 橋本 愛次(吳廠)

(各通)

同	福澤 常吉(神 監)
同	貴島 盛次(伊六潜)
海軍少佐	人見 銈一郎(軍 令)
海軍機關大佐	北野 綱雄(艦 本)
海軍機關中佐	草間 昌夫(神 監)
同	西岡 喜一郎(吳 廠)
海軍機關少佐	今田 乾吉(軍 務)
海軍機關大尉	岡 寅 雄(伊六潜)
海軍造船中佐	渡邊 隆吉(神 監)
海軍造兵中佐	堀 薄(神 監)

伊號第六潜水艦審議委員ヲ命ス(和同)

海軍公報

(部内限) 第二千四十號

昭和十年四月二十四日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房第五四號ノ三
昭和十年官房第五四號ニ依リ昭和十年度ニ於テ採用ス
ベキ各種練習生ノ員數中左ノ通改正ス

昭和十年四月二十四日

海軍大臣

表中特修科航空術ノ部空戰ノ項ヲ左ノ如ク改ム

空	戰	一	一	一	三
---	---	---	---	---	---

○通 牒

海人第一號ノ四八

昭和十年四月二十四日

海軍省人事局長

各鎮守府參謀長殿

特修科航空術練習生餘衡ニ關スル件申進

昭和十年官房第五四號ニ依リ採用スベキ特修科航空術
練習生ハ左ノ通餘衡相成度

空 戰 術			偵 察 術			攻 擊 術			專 修 科 目
佐世保	吳	横須賀	佐世保	吳	横須賀	佐世保	吳	横須賀	鎮守府
一	一	一				一	一	一	操縱練習 生數得シ 者(水上)
			一	一	一				同 (水上)
			一	一	四	一	一	四	偵察練習 生數得シ 者(水上)
一	一	一	二	二	五	二	二	五	計

海軍公報(部内限) 第二千四十號 昭和十年四月二十四日

二二七

○ 雜 款

○ 試験問題至急送付方ノ件依頼
 本艦來三十日横須賀發南洋方面ニ行動十一月上旬歸著
 ノ豫定ニ就テハ同方面ハ邊陲ノ地ニシテ便船稀ニ付各
 種學生、練習生試験問題等ハ試験期日其ノ他ヲ御考慮
 ノ上取急ニ御發送ノコトニ御取計ヲ得度
 追テ本艦行動中内地ヨリ本艦へ到達スル郵便物類ハ
 左記ノ通ニ有之御參考迄ニ申添候

記

横濱發期日

本艦へ到達期日

記 事

六月 九日	七月 三日	巴拉オ經由
七月 三十日	七月 二十七日	巴拉オ經由
八月 八日	八月 二十七日	
八月 十日	九月 二日	
八月 二十七日	九月 十三日	巴拉オ經由
九月 一日	九月 十三日	
九月 二十一日	十月 十五日	

(特務艦膠州)

海軍公報 (部内限) 第二千四十二號

昭和十年四月二十五日(木) 海軍大臣官房

○令 達

官房第一七九二號

昭和十年四月二十五日

海軍大臣

關係所屬長官殿

日本海海戦三十周年記念日ニ艦艇、

航空機派遣ノ件訓令

首題ノ件左記ニ依リ施行方取計フベシ

記

一、艦艇派遣

別表ノ區分ニ依リ艦艇ヲ派遣ス

但シ任務其ノ他已ムヲ得ザル事情アルモノニ限り

艦艇ノ配備ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニアリテ

ハ豫メ之ヲ報告スルモノトス

二、航空機派遣

五月二十七日横須賀、霞ヶ浦及館山海軍航空隊ノ

航空機ヲ派遣シ便宜東京及横濱兩市ノ上空ヲ飛行
セシム

(別表)

清水港	那智
名古屋港	第十一掃海隊ノ二隻
大阪港	大井、第十四潜水隊ノ一隻
神戸港	天龍、第十四潜水隊ノ一隻
	五月二十五日ヨリ同二十七日迄
和歌浦	第十一掃海隊ノ二隻
廣島港	第十二驅逐隊ノ一隻
須崎港	第二十四潜水隊ノ一隻
高松港	白鷹、第二十四潜水隊ノ一隻
今治港	第二十四潜水隊ノ一隻
博多港	妙高
長崎港	出雲
鹿児島港	常磐
金石港	鬼怒

海軍公報 (部内限) 第二千四十二號 昭和十年四月二十五日

新潟港 呂號第二十六潜水艦
 小樽港 大泊
 釜山港 第二十七驅逐隊ノ一隻
 仁川港 第二十七驅逐隊ノ一隻
 基隆港 龍山
 高雄港 第三驅逐隊ノ二隻
 大連港 第十五驅逐隊ノ一隻
 備考 期日記入ナキモノハ何レモ五月二十六日(日)
 及同二十七日(月)ノ兩日ニ直ルモノトス

○雜款

○郵便發物送先變更(三月十四日)
 特務艦鳴戸宛
 四月二十六日迄ニ到達見込ノモノハ 吳
 五月二十二日迄ニ 同 高知縣宿毛
 其ノ後ハ 横須賀

海軍公報(部内限)附録

海軍大臣官房

昭和十年四月二十五日(木)

昭和十年三月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

(海軍省軍務局)

艦船名	加算始終期(左)	加算始終期(右)	着發地名	行先	任務	恩給叙勳	加算率(二付月)	記事
龍田	三三	三三	馬公	厦門	外國鎮戍	同上	同上	
球磨	三三	三三	大同	台山列島	同	同上	同上	
駒橋	三三	三三	九須賀					
八淺雲間	一〇	一〇	三馬公	菲律賓諸島、 暹羅、 婆羅洲、 布哇諸島	外國鎮戍	一月半	同上	
磐手	一〇	一〇	三佐世保	揚子江	同	同上	同上	
伏間見田	九	一一	一四					昭和十年三月一日支那上海ニ於テ除籍

海軍公報(部内限)附録

蓼蓬逆	葛藤		薄萩	柁	夕島 風風	汐灘 風風	浦 風	隱 戸	襟 裳
三	三	三	三	三	三	三	一〇	三	一〇
三〇	二九	四	二二	二六	二七	二七	二八	二	三
馬公	同	旅順	同旅順	馬公	馬公	馬公	横須賀	吳	吳
油頭	青島		青島	流揚子城江	福州	島 ブラタス	同	北米沿岸	
同	外國鎮戍		同	同	同	外國鎮戍	同	遠洋航海	
同	一月半		同	同	同	一月半	同	三分ノ	
同上	同上		同上	同上	同上	同上			

海軍公報 (部内限) 附録

海軍公報 (部内限) 附録

武十								刈	芙蓉															
卓	夕	朝	疾	追	旗	松	春	柳	楡	問	鳴	神	龍	鳳	阿	名	五	長	多	榛	伊	山	扶	
月	風	風	風	風	風	風	風	宮	戸	威	駿	翔	限	取	鈴	良	摩	名	勢	城	桑			
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

綾磯東沖峯赤神由鳥摩愛高青古衣					鶴長	〃〃〃〃伊 若初子初長文水 第第第第 第第第第 無 五四三二一 潜水艦 葉霜日春月月月			
波波雲風風城通良海耶宏雄葉鷹笠					見鯨				
一〇					一〇				
三					三				
二九					二八				
油谷灣					油谷灣				
馬鞍群島					馬鞍群島				
外國鎮戌					外國鎮戌				
一月半					一月半				
同上					同上				

海軍公報(部内限)附録

四

伊勢電雷艇隊
第五十五潜水艦
第六十九
第六十二
第六十四
波霧

○左記艦名ノ下ニ各「」内ヲ加フ

伏 阴 田 見
〔昭和十年三月一日軍艦籍ヨリ除カル〕

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

海軍公報(部内限)附録

海軍公報 (部内限) 第二千四十二號

昭和十年四月二十六日(金)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一六一四號ノ二

官房第一六一四號第三號講習員中「同 山日道尹」「同

瀧山學穩」「同 柳堀精作」ヲ削リ、「同 河村浩」ノ

次ニ「同 青木寛治」ヲ、「同 山田涉」ノ次ニ「同

石淵知定」ヲ加フ

昭和十年四月二十六日

海軍大臣

(参照) 官房第一六一四號ハ海軍經理學校ニ於テ臨時主計科士官講習施行ノ件ナリ

○ 通 牒

官房機密第一〇六七號

昭和十年四月二十六日

海軍次官

各廳長殿

横須賀又ハ吳ニ於ケル航空兵器ノ増設、改造、修理、検査等ノ請求先ニ關スル件申進
首題ノ件當分ノ間左記ニ依ルコトニ定メラレ候

追テ昭和七年四月一日官房機密第三八九號ハ之ヲ廢止セラレ候

記

一、海軍航空廠ニ請求スベキモノ

第二號以外ノ航空兵器

二、横須賀海軍工廠ニ請求スベキモノ

(イ) 機銃彈藥包、爆彈炸藥、火管、信管、射出機用裝藥包、化兵藥及之ニ類似ノモノ

(ロ) 魚雷及航空機ニ裝備セザル水雷兵器

(ハ) 航空機ニ裝備セザル航海關係諸兵器

(ニ) 航空機ニ裝備セザル無線兵器

(ホ) 航空機ニ裝備セザル電氣兵器中電力及電弧ヲ使用セル裝置ノ電氣的部分並ニ航空機ニ裝備セザル電

氣通信裝置

海軍公報(律内限)第二千四十三號 昭和十年四月二十六日

二二二

三、廣海軍工廠ニ請求スベキモノ

第四號以外ノ航空兵器

四、吳海軍工廠ニ請求スベキモノ

(イ)機銃、機銃彈藥包、爆彈炸藥、火管、信管、射出機用裝藥包、化兵藥及之ニ類似ノモノ

(ロ)魚雷及航空機ニ裝備セザル水雷兵器

(ハ)航空機ニ裝備セザル航海關係諸兵器

(ニ)無線兵器

(ホ)航空機ニ裝備セザル電氣兵器中電力及電弧ヲ使用セル装置ノ電氣的部分並ニ航空機ニ裝備セザル電氣通信裝置

(註)艦裝品ノ工事ニ關シテハ明治四十四年艦本第二

六〇七號工廠各部工事分擔區分ノ件ニ依ルモノトス

○雜款

○郵便物發送先

第一航空戰隊司令部、軍艦龍驤、鳳翔、第五驅逐隊

(松風、春風、朝風、旗風)宛

四月二十八日迄ニ到達見込ノモノハ 吳

五月一日迄ニ同

高知縣宿毛

同 十一日迄ニ同
同 二十二日迄ニ同
其ノ後ハ

鹿兒島縣志布志
高知縣宿毛
在籍軍港

○郵便物發送先變更(三月十四日)

軍艦神威宛

自四月二十九日迄ニ到達見込ノモノハ 大分縣佐伯

至五月三十一日迄ニ到達見込ノモノハ 第一艦隊司令部ニ同シ

其ノ後ハ